

【講演記録】

Dülmer 先生 講演の解題

1. 講演題目 邦訳

ヨーロッパにおける「近代化と文化」の「道徳性と道徳の変化」に及ぼす影響——ユニバーサリズムからコンテクスチュアリズムへ——

2. 講演の背景

青山学院大学は、2010 年 3 月 18 日、ドイツ・ケルン大学との学術協定に調印し、さらに、2015 年 9 月 7 日、地球社会共生学部の新しい教育・研究プログラムのための客員教授の受け入れに関する協定を取り結んだ。そして、この協定にもとづいて、ケルン大学から Hermann Dülmer 教授が来学し、2016 年と 2017 年、特殊講義「Comparing Nations and Culture」を担当する運びとなった。本稿は、2017 年 9 月 13 日、学部教授会後になされたショート・レクチャーの内容に加筆することによって作成されたものである。

3. 講演者紹介

Hermann Dülmer 教授は、ドイツおよびヨーロッパの実証社会学の領域において、広く活躍している中堅の研究者である。ギーセン大学で Peter Schmidt 教授からデータ分析法を、ケルン大学で Wolfgang Jagodzinski 教授から社会学理論を学び、そこから独自の学風を樹立してきた。ケルン大学およびヴェルツブルグ大学で教鞭をとるとともに、内外の大学・研究機関から客員教授として、あるいは国際会議やシンポジウムの発題者として招聘を受け、多彩な研究・教育活動を展開している。

4. 講演内容の解題

本講演の内容を一言でいうならば、それはつぎのようにまとめられる。社会の近代化——合理化と機能分化——にともなって、「伝統的な道徳性」は「現代的な道徳性」へと変化してきた。それは、「普遍的・絶対的な道徳性」から「コンテクスト的・相対的な道徳性」への変化と表現される。このような議論を、本講演では、カント、ウェーバー、ハーバーマス、インゲルハートらの諸理論の考察から始める。そして、そのような理論的考察にもとづいて理論仮説を導き出した上で、それらを大規模な国際比較調査——「ヨーロッパ価値観調査(EVS)」や「世界価値観調査(WVS)」——のデータ分析——「多水準分散分析」「多水準回帰分析」「人間開発指数と各変数との関係性の分析」など——をとおして、実証的に確認することを試みる。その結果、近代化は「道徳性」の内容の変化に影響を及ぼすが、そのような影響は一様ではなく、そこには文化の違いという要因が介在するものであることが明らかとなった。